



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第261回演奏会

The New Symphony Orchestra – 261st Concert

指揮 矢崎 彦太郎
YAZAKI Hikotaro, conductor

ドヴォルザーク

Antonín DVOŘÁK (1841-1904)

交響曲第7番 二短調

Symphony No. 7 in D minor, Op. 70, B. 141, 1885

ドビュッシー

Claude DEBUSSY (1862-1918)

交響組曲 春

Symphonic Suite "Printemps", 1887
(Orchestrated by Henri Büsser, 1908)

交響詩 海

Symphonic Poem "La Mer"
three symphonic sketches for orchestra, 1905

使用した地図は陸地測量部 1:20,000 地形図「神奈川」明治39年 (1906) 測図

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2023年4月23日(日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, April 23, 2023, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,000 (全席指定) *1月28日発売開始予定

チケットのお申し込み: [teket https://teket.jp/3558/19521](https://teket.jp/3558/19521) このQRコードをご利用ください→

インターネットを利用されない方は 080-9010-0058 (留守電にメッセージを入れてください)

プレイガイド: チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード: 234999・興行コード: 2300474

東京芸術劇場ボックスオフィス (1階) 休館日を除く 10:00~19:00 0570-010-296



*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますので申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

パリを拠点に世界的に活躍し、その理知的なタクトから豊かな色彩溢れる指揮者、矢崎彦太郎と共演するようになり今年で10年になります。今までフランスの管弦楽作品を中心にプログラミングしてきましたが、今回はいよいよドビュッシーの代表作である「海」を取り上げます。

ドビュッシーの2つの交響的な絵画

フランス印象派を代表する作曲家であるドビュッシー(1862-1918)が、交響詩「海」を作曲したのは1905年。オペラ「ペレアスとメリザンド」が成功し、作曲家としての地位が確立された時期でもあります。「海上の夜明けから真昼まで」「波の戯れ」「風と海との対話」という3つの楽章からなり、海的情景が時間経過とともに描かれます。初版のスコアの表紙には、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」が使われました。

交響組曲「春」はドビュッシーがローマ大賞を獲得してローマに留学していた1887年に作曲されました。ボッティチェリの名画「プリマヴェーラ（春）」から着想を得て作曲したと言われており、春の息吹や喜びが描かれています。残念ながら火災により楽譜が焼失したのですが、合唱とピアノの版は残っており、ドビュッシーの指示でビュッセルにより新たにオーケストレーションされました。

ドヴォルザークの正統派シンフォニー

もう1曲は、矢崎からのリクエストでドヴォルザークのシンフォニーを演奏します。

チェコ国民楽派を代表する作曲家であるドヴォルザーク(1841-1904)は、国際的な名声を得て1884年にロンドン・フィルハーモニック協会の名誉会員に選ばれました。その際の依頼によって生まれたのが交響曲第7番です。完成したのは作曲家が43歳の時で、ドビュッシーが「海」を作曲したのも同じ43歳。ともに円熟期の代表作です。

ドヴォルザークといえば「新世界」交響曲があまりにも有名ですが、この第7番は絶対音楽的な性格が強く、形式的にも古典的な構成で、9つの交響曲の中でもっともドイツロマン派的な作品です。ブラームスの交響曲第3番の影響が強いといわれていますが、ドヴォルザーク独特の素朴で温かな響きを持ち民族的な要素も散りばめられている魅力的な曲です。

どうぞお楽しみに！（H.O.）

ご来場いただくお客様へ（新型コロナウイルス感染症対策）

当日は平熱と比べ高い発熱、咳・のどの痛み・倦怠感等の体調不良がある方はご来場をお控えください。会場入口でご来場の皆様の体温を測定します。会場内ではマスク着用し、咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒をお願いします。ほかのひととの距離できるだけ空け、大きな声での会話はお控えください。

詳しくはホームページにて注意事項や公演の最新情報をご確認ください。これらのお願い事項につきましては、状況により変更になる場合がありますので、ご了承ください。

今後の演奏会予定

＜第262回演奏会＞

2023年7月17日（月祝）14時 東京芸術劇場

指揮 中田 延亮

曲目 トゥリーナ/幻想的舞曲集、伊福部 昭/シンフォニア・タプカーラ、ファリャ/バレエ音楽「三角帽子」全曲

＜第263回演奏会＞

2023年10月9日（月祝）14時 東京芸術劇場

指揮 坂入健司郎

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志(1925-89)の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(山田一雄指揮、1979-90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座:00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail:shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時～9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。対象年齢:生後3ヵ月から小学校入学前、1公演あたり2,200円(税込) お問合せ:株式会社ミラクス ミラクスシッター、電話0120-415-306(平日9:00～17:00、土日祝日休み)